

防災ハザードマップ

Yokkaichi City BOSAI Hazard MAP



洪水



高潮



地震



土砂災害



内水氾濫



津波



四日市市

令和5年7月

地区ごとのマップの掲載ページ

地区	逃げどきマップ (洪水・土砂災害)		高潮 ハザードマップ	内水氾濫 ハザードマップ		津波ハザードマップ				
	マップ	掲載ページ		浸水深	到達時間	マップ	掲載ページ			
ちゅうぶ 中部地区	9-12	51~52, 57~58	マップ 1・2	掲載ページ 67~70	マップ 1・2	掲載ページ 73~76	マップ 1・2	掲載ページ 83~86	マップ 1・2	掲載ページ 87~90
とみすはら 富洲原地区	マップ	掲載ページ 43~44	マップ 1	掲載ページ 67~68	マップ 1	掲載ページ 73~74	マップ 1	掲載ページ 83~84	マップ 1	掲載ページ 87~88
とみだ 富田地区	マップ	掲載ページ 43~44, 51~52	マップ 1	掲載ページ 67~68	マップ 1	掲載ページ 73~74	マップ 1	掲載ページ 83~84	マップ 1	掲載ページ 87~88
はつ 羽津地区	マップ	掲載ページ 43~44, 51~52	マップ 1	掲載ページ 67~68	マップ 1	掲載ページ 73~74	マップ 1	掲載ページ 83~84	マップ 1	掲載ページ 87~88
とみわ 常磐地区	8-9 11-12	掲載ページ 49~52, 55~58	マップ 1・2	掲載ページ 67~70	マップ 1・2	掲載ページ 73~76	マップ 2	掲載ページ 85~86	マップ 2	掲載ページ 89~90
ひなが 日永地区	11-12 13-14	掲載ページ 55~62	マップ 2	掲載ページ 69~70	マップ 2	掲載ページ 75~76	マップ 2	掲載ページ 85~86	マップ 2	掲載ページ 89~90
よごう 四郷地区	マップ	掲載ページ 53~56	マップ 2	掲載ページ 69~70	マップ 2	掲載ページ 75~76	マップ 2	掲載ページ 75~76	マップ 2	掲載ページ 89~90
うつべ 内部地区	11-13 14	掲載ページ 55~56, 59~62	マップ 2	掲載ページ 69~70	マップ 2	掲載ページ 75~76	マップ 2	掲載ページ 85~86	マップ 2	掲載ページ 89~90
しおはま 塩浜地区	マップ	掲載ページ 57~58, 61~62	マップ 2	掲載ページ 69~70	マップ 2	掲載ページ 75~76	マップ 2	掲載ページ 85~86	マップ 2	掲載ページ 89~90
おやまだ 小山田地区	7-8 10-11 13	掲載ページ 47~50, 53~56, 59~60								
かわしま 川島地区	7-8 11	掲載ページ 47~50, 55~56								
かんばん 神前地区	マップ	掲載ページ 49~50								
ざくら 桜地区	マップ	掲載ページ 45~50								
みえ 三重地区	2-4 8-9	掲載ページ 37~38, 41~42, 49~52			マップ 1	掲載ページ 73~74				
あがた 県地区	マップ	掲載ページ 39~42, 49~50								
やさと 八郷地区	マップ	掲載ページ 37~38, 41~44			マップ 1	掲載ページ 73~74				
しもの 下野地区	マップ	掲載ページ 35~38, 41~42								
おおやち 大矢知地区	2-4 5-9	掲載ページ 37~38, 41~44, 51~52	マップ 1	掲載ページ 67~68	マップ 1	掲載ページ 73~74				
かわらだ 河原田地区	マップ	掲載ページ 59~62	マップ 2	掲載ページ 69~70	マップ 2	掲載ページ 75~76				
すいざわ 水沢地区	6-7 10	掲載ページ 45~48, 53~54								
ほほ 保々地区	マップ	掲載ページ 35~36								
かいぞう 海蔵地区	マップ	掲載ページ 51~52	マップ 1	掲載ページ 67~68	マップ 1	掲載ページ 73~74				
きょうほく 橋北地区	マップ	掲載ページ 51~52, 57~58	マップ 1・2	掲載ページ 67~70	マップ 1	掲載ページ 73~74	マップ 1	掲載ページ 83~84	マップ 1	掲載ページ 87~88
くす 楠地区	マップ	掲載ページ 61~62	マップ 2	掲載ページ 69~70	マップ 2	掲載ページ 75~76	マップ 2	掲載ページ 85~86	マップ 2	掲載ページ 89~90

地震ハザードマップ(市全域) 掲載ページ 79~80

発行 四日市市
企画・編集 四日市市危機管理課、(株)アイ・ディー・エー社会技術研究所
監修 片田敏孝(東京大学大学院情報学環特任教授)

問い合わせ先 四日市市危機管理課

TEL : 059-354-8119

FAX : 059-350-3022

本書に掲載した地図の一部は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報 20万)及び基礎地図情報を使用した。(測量に基づく国土地理院長承認(使用) R4Jh644)
本書に掲載した地図の一部は、「国土数値情報(河川データ、市町村役場、警察署、消防署) 国土交通省」を使用した。

自分の命を自分で守るために **いまからはじめる** 知る。考える。備える。

災害から命を守るために、あなたのまわりで想定されている災害を知り、それぞれの状況に応じて必要な対応を考え、その対応ができるように日ごろから備えておくことが大切です。

Step1 知る

災害リスクを知る

四日市市には、風水害（洪水、土砂災害、高潮、内水氾濫）や、地震、津波等の災害のリスクがあります。



命を守るための対応や情報を知る

風水害（洪水、土砂災害、高潮、内水氾濫）や、地震、津波等の災害ごとに命を守るための対応が違います。



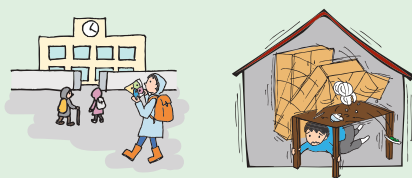
Step2 考える

あなたや家族の命を守る対応を考える

風水害（洪水、土砂災害、高潮、内水氾濫）は、事前に情報を入手し、災害が発生する前に対応することができる災害です。

一方で、地震は突然起こります。

ハザードマップであなたや家族の命を守るための対応について考えましょう。



Step3 備える

食料や必需品の備え

避難所の備蓄品には限りがあります。

また、災害時には、電気や水道、ガス等のライフラインが止まることも考えられます。



自宅の備え

自宅の危険な箇所や、洪水に備えてできることなどをチェックし、対策しておきましょう。



日ごろから

自分で、家族で、地域で知る。考える。備える。

災害発生

命を守る行動を実行



contents page

Step 1 知る	3 ~ 4
気づきマップ	5 ~ 6
命を守る対応を知る	7 ~ 8
命を守るための情報	9 ~ 10
情報の入手方法	11 ~ 12
風水害の基礎知識	13 ~ 14
洪水を知る	15 ~ 16
土砂災害を知る	17 ~ 18
高潮を知る	19 ~ 20
内水氾濫を知る	21 ~ 22
地震・津波の基礎知識	23 ~ 24
地震を知る	25 ~ 26
津波を知る	27 ~ 28
Step 2 考える	29 ~ 30
マップの掲載ページ・索引図	31 ~ 32
逃げどきマップ（洪水・土砂災害）	33 ~ 34
逃げどきマップ1～逃げどきマップ14	35 ~ 62
（参考）洪水浸水想定区域図	63 ~ 64
高潮ハザードマップ	65 ~ 66
高潮マップ1～マップ2	67 ~ 70
内水氾濫ハザードマップ	71 ~ 72
内水氾濫マップ1～マップ2	73 ~ 76
地震ハザードマップ	77 ~ 78
液状化危険度マップ/震度分布マップ	79 ~ 80
津波ハザードマップ	81 ~ 82
津波浸水深マップ1～マップ2	83 ~ 86
津波到達時間マップ1～マップ2	87 ~ 90
Step 3 備える	91 ~ 92
非常持出品・備蓄品	93 ~ 94
自助・共助・公助	95 ~ 96
指定緊急避難場所一覧	97 ~ 100
津波避難ビル一覧	101 ~ 102
家族の避難計画（風水害）	103 ~ 104
家族の避難計画（地震・津波）	105
家族の連絡先/避難のときの連絡先	106
逃げどきマップ判定フロー	107
災害時の連絡・問い合わせ先	108

Step 1

知る



Q 四日市市にはどんな災害リスクが想定されている？

四日市市にも、風水害（洪水、土砂災害、高潮、内水氾濫）や、地震、津波等の災害のリスクがあります。

気づきマップ → 5～6ページ

Q いつ、どこへ避難したらいい？

適切な避難の方法は、災害の種類や、あなたや家族、自宅や周辺の状況によっても異なります。

命を守る対応を知る → 7～8ページ

Q 命を守るための情報にはどんなものがある？

避難を促す情報や気象情報、河川水位情報など、避難のきっかけとなる情報が各機関から発表されます。積極的に情報を集めて行動しましょう。

命を守るための情報 → 9～10ページ

情報の入手方法 → 11～12ページ

Q 風水害ってどんな災害？

風水害は、台風や大雨などを原因とする災害です。四日市市には、洪水、土砂災害、高潮、内水氾濫が想定されています。

風水害の基礎知識 → 13～14ページ

Q 風水害から命を守るには？

風水害（洪水、土砂災害、高潮、内水氾濫）は、事前に情報を入手し、備えることができる災害です。自宅周辺の災害リスクを確認し、どこに避難するかやどのような情報で避難を始めるかを確認しましょう。

洪水を知る → 15～16ページ

土砂災害を知る → 17～18ページ

高潮を知る → 19～20ページ

内水氾濫を知る → 21～22ページ

Q 地震や津波から命を守るには？

地震の場合は、事前に情報を入手することができないため、揺れから身を守る方法を知っておきましょう。

地震・津波の基礎知識 → 23～24ページ

地震を知る → 25～26ページ

津波を知る → 27～28ページ

気づき マップ

このマップは、四日市市に想定されている洪水浸水想定区域図、土砂災害警戒区域、津波浸水想定、高潮浸水想定区域図、ため池ハザードマップに基づいて、どのような災害の危険性があるかを示したものです。

お住いの地区では、どのような災害の影響を受けやすいのかを知っておきましょう。

! 災害では想定外がつきものです。このマップに掲載されている災害だけではなく、大雨で排水できず水がたまるなど、色が塗られていないところでも危険があります。

想定にとらわれず、危険を感じたらご自身の判断で行動してください。

四日市市には多くの河川があり、河川ごとに浸水する範囲が異なります。

この色の地域は…
洪水 のおそれがある地域

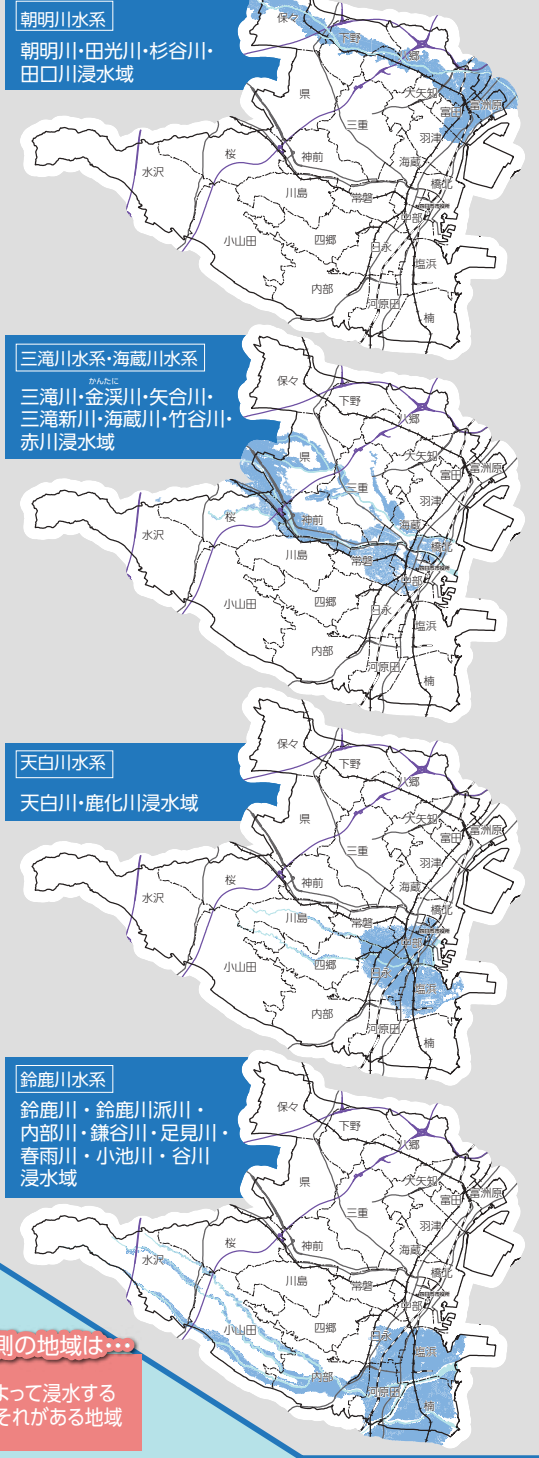
この色の地域は…
土砂災害 のおそれがある地域

この色の地域は…
ため池 の氾濫による浸水のおそれがある地域

地震 市内には最大で震度5強～7が想定されています

この線より海側の地域は…
高潮 によって浸水するおそれがある地域

この線より海側の地域は…
津波 によって浸水するおそれがある地域



知る

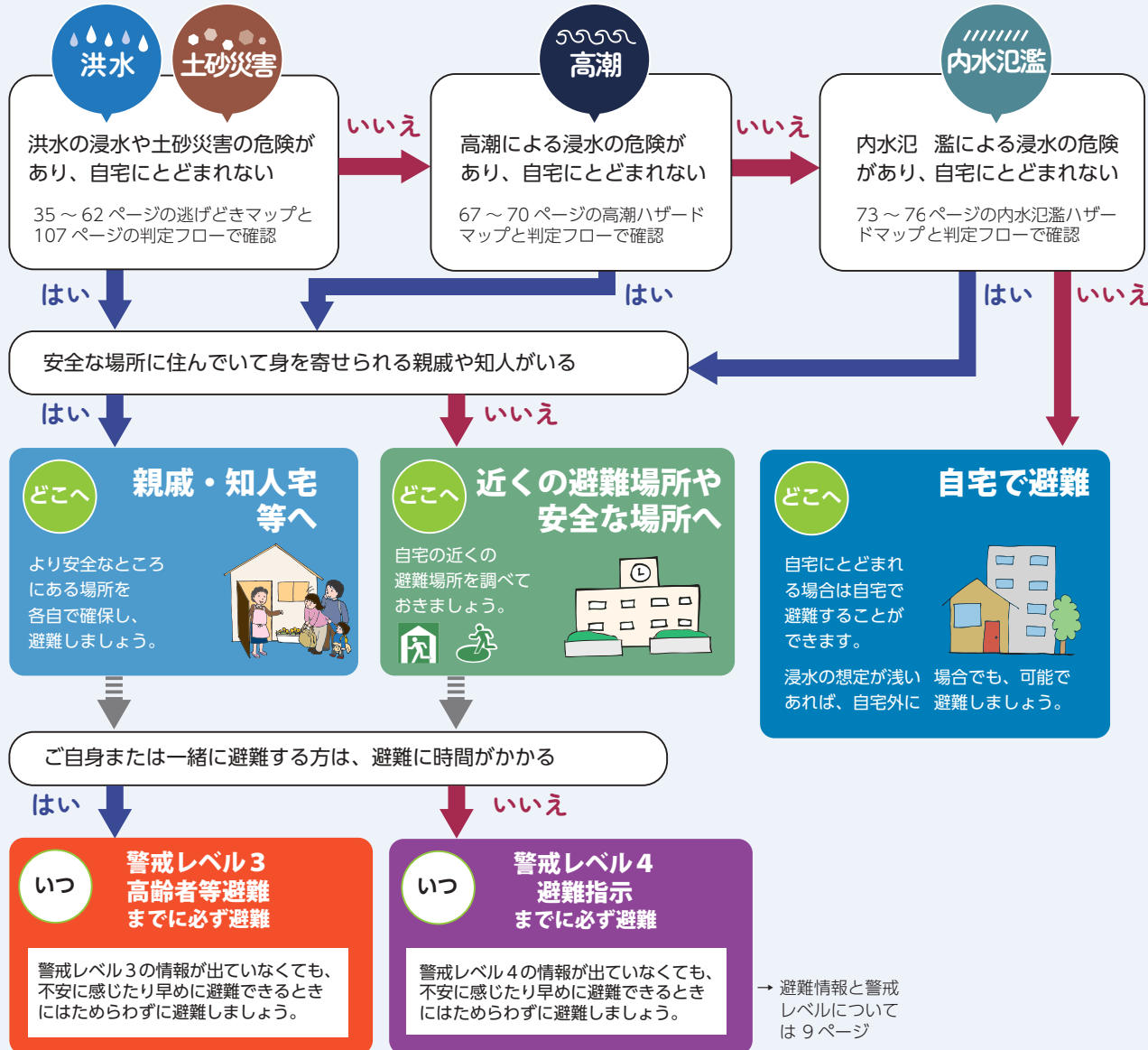
避難はいつ? どこへ? 命を守る対応を知る

避難のタイミングや避難先は、災害の状況によっても違います。
ハザードマップをみて、あなたの避難対応を確認しておきましょう。

知る

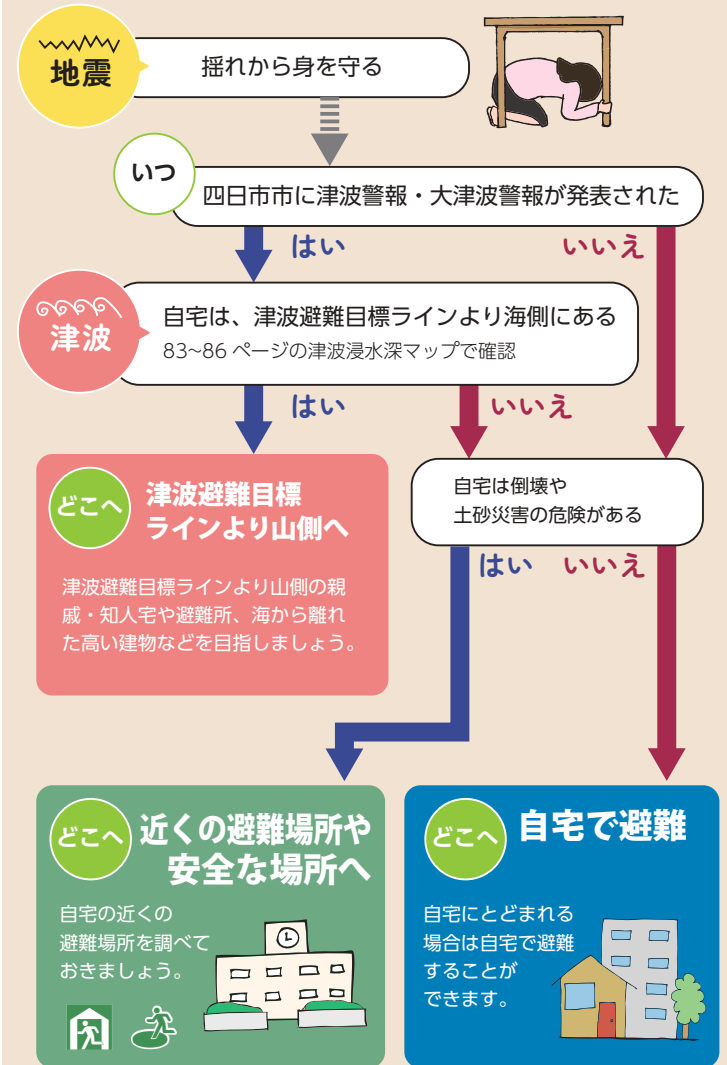
台風や大雨により、風水害のおそれがあるとき

洪水、土砂災害、高潮のおそれがあるところに住んでいる人は、台風や大雨のときには、避難が必要です。



地震が発生したとき


地震発生時は津波や自宅の被害状況に応じた対応が必要です。




命を守るための情報

災害の種類と防災情報

災害の種類



洪水



土砂災害

情報

大雨警報・注意報／洪水警報・注意報

大雨により、災害が起こるおそれがある場合、警報や注意報などの防災気象情報が気象庁から発表されます。

大雨注意報・洪水注意報	災害が起こるおそれがあるとき
大雨警報（土砂災害・浸水害）・洪水警報	重大な災害が起こるおそれがあるとき
大雨特別警報（土砂災害・浸水害）	重大な災害がすでに発生している可能性が極めて高い

土砂災害警戒情報

大雨警報（土砂災害）の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、警戒を呼びかける情報

河川水位情報

川の水位の状況や今後の見込みを伝える洪水予報

避難情報

避難が必要なときは、市から避難情報を発令します。

情報を受け取るための**四日市市Sアラート**や、**四日市市安全安心防災メール**は、事前に登録しておきましょう。
→ 登録方法は 11 ページ

災害時の情報（洪水・土砂災害・高潮等）

みなさんの命を守る対応

警戒レベル 1

↓

警戒レベル 2

↓

警戒レベル 3

↓

警戒レベル 4

↓

警戒レベル 5

気象庁が発表
早期注意情報
今後気象状況悪化のおそれがあるとき発令

気象庁が発表
大雨注意報、洪水注意報、高潮注意報（警報に切り替える可能性に言及されていないもの）等
気象状況悪化のとき発令

市が発令
高齢者等避難
災害のおそれがあるとき発令

市が発令
避難指示
災害のおそれが高いとき発令

市が発令
緊急安全確保
災害が実際に発生している又は切迫しているとき発令

災害への心構えを高める

自らの避難行動を確認

危険な場所から高齢者等は避難
高齢者等（避難に時間を要する人）以外の方も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。


危険な場所から全員避難
避難の途中で危険を感じたら、近くの安全な場所へ

命の危険 直ちに安全確保！
浸水の中を避難するのはとても危険です。


警戒レベル 4 までに**必ず避難！**

警戒レベル 5 は、必ず発令する情報ではありません。警戒レベル 5 を待たずに、必ず危険な場所から避難！
※市が災害の状況を確実に把握できるものではないため


※ 対象河川や災害状況の進展により必ずしもこの順番で情報は出るとは限りません。状況に応じた柔軟な対応が重要です。



高潮



地震



津波

高潮警報・注意報

台風によって海面が上昇し、沿岸で災害が起こるおそれがある場合、気象庁から発表されます。

高潮注意報 警報に切り替える可能性に言及されていないもの	災害が起こるおそれがあるとき
高潮注意報 警報に切り替える可能性に言及されているもの	災害が起こるおそれがあるとき
高潮警報	重大な災害が起こるおそれがあるとき
高潮特別警報	重大な災害がすでに発生している可能性が極めて高い

潮位観測情報

全国の潮位観測地点の6日前～最新の実況及び明日までの予想を即報的に表示した情報

緊急地震速報

地震の発生直後に各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報

津波の情報

地震発生後、津波による災害の発生が予想される場合には、警報・注意報等を発表します。

<みなさんの対応>

津波注意報	海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。
津波警報	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難。
大津波警報（特別警報）	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難。

→ 情報の入手方法は 11 ～ 12 ページ

河川水位・雨量・潮位の情報

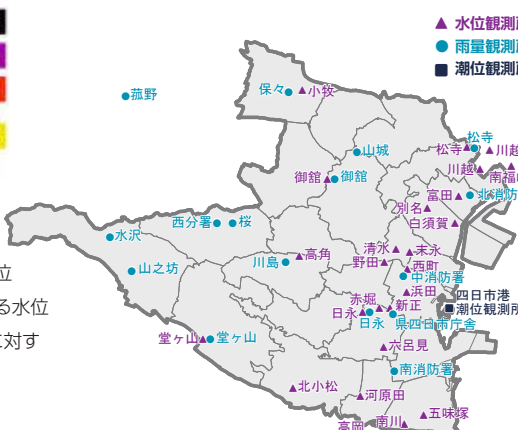
四日市市内では、河川水位、雨量、潮位を観測しています。

河川の洪水・氾濫が起きる可能性が高いときは、河川の水位などを確認しましょう。

→ 確認方法は 12 ページ

水位の名称

水位の名称	危険度レベル	洪水予報
氾濫の発生		氾濫発生情報
氾濫危険水位	レベル4	氾濫危険情報
避難判断水位	レベル3	氾濫警戒情報
氾濫注意水位	レベル2	氾濫注意情報
水防団待機水位	レベル1	
通常水位		



▲ 水位観測所
● 雨量観測所
■ 潮位観測所

氾濫危険水位：「避難指示」の発令判断の目安となる水位

避難判断水位：「高齢者等避難」の発令判断の目安となる水位

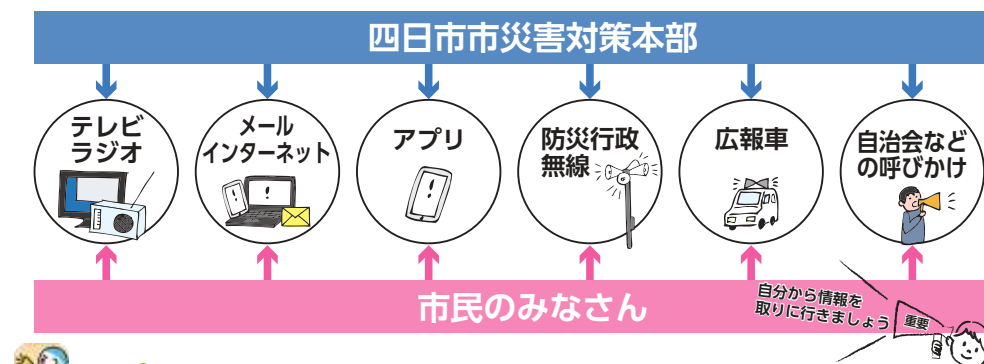
氾濫注意水位：水防団が出動に備え準備を行い、氾濫に対する注意喚起を行う水位

水防団待機水位：水防団が自宅での準備を行う水位

情報の入手方法

情報の伝わり方

避難や災害に関する情報は、多くの方法により入手することができます。自ら積極的に情報を入手しましょう。



アプリで受け取る

四日市市 S アラート QRコードでアプリをダウンロード

四日市市が発信する避難情報等を入手できます。



iPhone, iPad

Android

メールで受け取る

四日市市安全安心防災メール 事前登録をしましょう

四日市市が発信する防災情報等を入手できます。

右の QR コードを読み取り、「空メールを送信する」をクリックして、折り返し届いたメールに記載の手順に従って登録してください。



スマートフォン、PC、フューチャーフォン

URL <https://plus.sugumail.com/usr/yokkaichi/home>
(フューチャーフォン (ガラケー) の方はこちらから)
 URL <https://m.sugumail.com/m/yokkaichi/home>

緊急速報メール(エリアメール) 登録不要

避難指示などの情報は、「緊急速報メール(エリアメール)」により、対応した携帯電話に配信しています。

※一部対応していない機種もあります。詳しくは各携帯電話会社にお問い合わせください。

電話で調べる

防災サイレン・音声放送確認ダイヤル

自動電話応答で、サイレンや音声放送の内容を確認することができます。

TEL 059-351-4004

テレビ・ラジオで調べる

テレビ

地デジ NHK 3ch ケーブルテレビ CTY ※要加入
 テレビの **d** ボタン (データ放送)

ラジオ

AM NHK 名古屋第1 729kHz FM CTY-FM 76.8MHz
 NHK-津 FM 81.8MHz
 レディオキューブ FM 三重 78.9MHz

インターネットで調べる

四日市市防災情報

四日市市が発信する防災情報を見ることができます。



URL <https://bousai2.city.yokkaichi.mie.jp/>

インターネットで調べる

気象情報、雨量・河川水位・潮位情報

四日市市防災気象情報

四日市市内の天気・各種注意報・警報の発表状況、雨量、河川の水位観測データなど。

URL <https://yokkaichi-city.bosai.info/>



防災みえ.jp

三重県内の天気、各種注意報・警報の発表状況、雨量、河川の水位観測データなど。

URL <https://www.bosaimie.jp>



CTY-NET Online

三滝川、海蔵川、鹿化川等のライブカメラ映像 (1分ごとに更新)

URL <https://www.cty-net.ne.jp/>



※スマートフォンはアプリが必要です。QRコードでアプリをダウンロード

気象庁

気象の注意報・警報、台風情報、地震・津波情報など。

URL <https://www.jma.go.jp>



公開型 GIS (防災情報)

デジタル化した様々な地図情報を視覚的に分かりやすく提供することができるシステムです。

URL <https://bousai2.city.yokkaichi.mie.jp/hazard-map/hm-03/>



四日市市地域防災計画【資料集】

指定緊急避難場所などの一覧表や、風水害等の浸水想定区域内の要配慮者利用施設や地下街等を確認できます。

URL <https://bousai2.city.yokkaichi.mie.jp/plan-document/local-disaster-prevention-plan/etc-04/>



アプリで調べる

四日市市 AR 防災学習アプリ「ARLook」(あるっく) QRコードでアプリをダウンロード

スマホなどのカメラをかざして、地域を「歩いて」「見る」ことで、AR技術により表示される近くの避難所や現在の浸水深などを見ることができます。



iPhone, iPad

Android

国土交通省 川の防災情報

気象の注意報・警報、台風情報、地震・津波情報など。

URL <https://www.river.go.jp>



川の水位情報(危機管理型水位計) (一般財団法人河川情報センター)

危機管理型水位計の観測値など。

URL <https://k.river.go.jp>



四日市港の環境(四日市港管理組合)

四日市港の現在の潮位など。

URL <http://www.yokkaichi-port.or.jp/yp-environment/index.html>



キキクル(危険度分布)で周辺の雨や危険度を調べる

警報が発表されたときに、どこで土砂災害や浸水害、洪水災害の危険度が高まっているかを確認することができます。



避難所混雑情報サイト[VACAN]

各指定避難所の空き・混雑状況を確認できます。

URL <https://vacan.com/area/yokkaichi-city-evacuation/evacuation-center/11>



風水害の基礎知識

近年、全国各地でこれまでに経験したことがないような台風や大雨による災害が頻発しています。こうした状況は、地球の温暖化等により、今後さらに増加すると考えられています。



1959年（昭和34年）伊勢湾台風
風と高潮で破壊された富田一色の海岸地帯



1974年（昭和49年）7月集中豪雨
日永・二丁目付近

台風や大雨はどうして起こる？

台風や前線を伴った低気圧が日本付近を通過したり、前線が停滞したりするときは広い範囲に大雨を降らせることがあります。また、台風は、雨だけでなく強い風や高潮にも注意が必要です。

台風

海面水温が高い熱帯の海上では上昇気流が発生しやすく、この気流によって次々と発生した積乱雲が多数まとまって渦を形成するようになり、発達したものを台風と呼びます。台風は赤道付近の海上で多く発生します。

前線による大雨

暖かい空気と冷たい空気がぶつかる場所を前線と呼びます。前線では、温度差の影響による上昇気流で、雲が発生するため、前線付近では雨が降りやすくなります。梅雨の時期などでは暖かい空気と冷たい空気の勢力が同じ程度になり、同じ位置に停滞することから、長雨が降りやすくなります。

風水害の種類（台風や大雨により発生する災害）



雨の強さと降り方

雨の強さ 予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
	時間雨量 (mm/時間) 10~20mm 未満	時間雨量 (mm/時間) 20~30mm 未満	時間雨量 (mm/時間) 30~50mm 未満	時間雨量 (mm/時間) 50~80mm 未満	時間雨量 (mm/時間) 80mm 以上
	●地面一面に水たまりができる	●傘をさしていても濡れる ●ワイパーを速くしても見づらい	●道路が川のようになる ●バケツをひっくり返したような雨	●傘はまったく役に立たない ●車の運転は危険 ●地下に雨水が流れ込む	●息苦しくなるような圧迫感や恐怖を感じる

風の強さ

風の強さ 予報用語	やや強い風	強い風	非常に強い風	非常に強い風	猛烈な風
	平均風速 (m/s) 10m~15m 未満	平均風速 (m/s) 15m~20m 未満	平均風速 (m/s) 20m~25m 未満	平均風速 (m/s) 25m~30m 未満	平均風速 (m/s) 30m 以上
	●風に向かって歩かにくくなる ●高速運転中では横風に流される感覚を受ける	●風に向かって歩けなくなり転倒する人もいる ●高速道路での運転が困難	●何かにつかまっていなくて立ってられない ●飛来物によって負傷するおそれがある ●通常で速度で運転するのが困難になる	●屋外での行動は極めて危険 ●走行中のトラックが横転する	●多くの樹木が倒れる ●ブロック塀や住家が倒壊を始める

洪水を知る

洪水って？

台風や前線の停滞により、たくさん雨が降り、河川の堤防が壊れたり、河川から水があふれたりすること



四日市市を流れる川

四日市市には、朝明川、海蔵川、三滝川、鹿化川、天白川、内部川、鈴鹿川など多くの河川があります。過去には、台風や大雨による河川の氾濫など、多くの水害に見舞われてきました。今後も気候変動の影響などにより、河川が氾濫する恐れがあるため、市内の多くの河川を対象とした洪水浸水想定区域図が公表されています。



避難のポイント

余裕を持って早めに避難しましょう

夜間は視界も悪く、音も聞こえづらいため、危険です。台風の接近や、大雨が降り続く予想の場合は、暗くなる前に早めに避難しましょう。



避難所以外へ避難する分散避難も考えておきましょう

避難所で収容できる人数は限られます。感染症対策の観点からも各自で浸水のおそれの低い地域の親戚・知人宅や民間の宿泊施設などを避難先として確保しましょう。



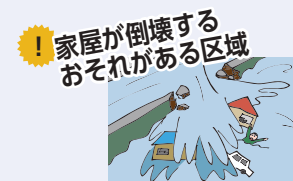
避難のときに注意すること



水が濁って足元が見えにくくなります。フタが外れたマンホールや側溝などに転落して危険です。



高架下のアンダーパスなど、周囲より低く冠水しやすい道路の通行は避けましょう。



氾濫の流れの勢いが強く、建物壊れたり、流されたりするおそれがある区域もあります。避難情報を聞いたら直ちに避難しましょう。

命を守る行動 最初の避難

警戒レベル3 高齢者等避難 や 警戒レベル4 避難指示 で 危険な場所から必ず逃げる！

台風の接近や低気圧などによる大雨が予測される場合には、危険な場所に近づかず、浸水のおそれが少ない地域へ早めに避難しましょう。親戚や知人宅などへの避難も選択肢の1つです。

避難先として 浸水域外の親戚・知人宅や避難所 など を探しましょう。

命を守る行動 逃げ遅れてしまったら...

浸水後もとどまれる 高くて丈夫な建物 へ

浸水の中を歩くことは危険です。逃げ遅れてしまったら、その場その時の状況で最も安全と思われる場所で身を守りましょう。

避難先として、高い建物、高い場所、自宅の高いところ、近くの安全なところ を探しましょう。

33～62ページの逃げどきマップで判定しましょう。

気心の知れた親戚・知人宅へ

近所の方に避難の声掛け

高齢者の方、避難に時間のかかる方は、警戒レベル3 高齢者等避難で避難を開始

一緒に避難

マンホールや側溝

垂直避難

川の近く

河川が氾濫した場合には、長いところで3日程度浸水が続くことが想定されています。

土砂災害を知る

土砂災害って?

大雨や地震などが引き金となって、山やけが崩れたり、水とまじりあった土や石が川から流れ出たりする災害



土砂災害の種類

土砂災害には3種類あります。発生前に見られる前兆現象が見られた場合は、早めに安全な場所に避難することが大事です。

がけ崩れ (急傾斜地の崩壊)

地面にしみ込んだ水が斜面をゆるめ、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちること



- 前兆現象
- がけから水が湧き出ている
 - がけから小石がぼらぼら落ちてくる
 - がけに割れ目が見える

土石流

山腹や川底の石や土砂が、長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されること



- 前兆現象
- 雨が降り続けているが川の水位が下がる
 - 山鳴りがする
 - 急に川が濁り流木が混ざっている

地すべり

地下水などの影響により、地面が広い範囲にわたってゆっくりとすべり落ちること



- 前兆現象
- 沢や井戸の水が濁る
 - 地面にひび割れができる
 - 斜面から水が噴き出す

避難のポイント

地域・家族で避難ルールを決めておく

土砂災害の前兆現象を発見したら、周囲で情報共有して、避難を始めることが大切です。日頃から避難先や情報共有の方法を決めておきましょう。



雨がやんだあとも注意が必要です

これまでに降った雨が土の中に残っています。雨がやんでも大雨警報が発表されている間は、土砂災害が発生するおそれがあるため警戒しましょう。



土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域

土砂災害が発生するおそれのある区域として、危険度に応じて、土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域が、三重県により指定されています。なお、区域指定は順次行われています。

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

土砂災害のおそれがある区域で、土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危険が生じるおそれがあると認められる区域です。

土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

土砂災害のおそれがある区域で、土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域です。

命を守る行動 最初の避難

警戒レベル3 高齢者等避難 や 警戒レベル4 避難指示 で 危険な場所から必ず逃げる!

土砂災害は、避難情報を発令することが非常に難しい現象です。雨や前兆現象に注意し、情報が無くても自主的に避難するきっかけをつかみましょう。

避難先として 洪水・土砂災害のおそれの低い地域の親戚・知人宅や避難所などを探しましょう。

命を守る行動 逃げ遅れてしまったら...

丈夫な建物や2階以上の斜面から離れた場所へ

逃げ遅れてしまったら、その場そのときの状況にあわせて最も安全と思われる場所で身を守りましょう。



避難先として、高い建物、高い場所、自宅の高いところ、近くの安全なところを探しましょう。

33～62ページの逃げどきマップで判定しましょう。



高潮を知る

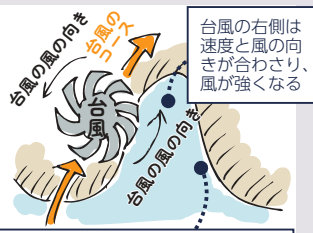
高潮って？

台風や低気圧などにより海面が上昇し、押し寄せる現象のこと



台風の規模と高潮への影響

台風が接近して気圧が低くなると、気圧低下 1hPa につき海面が約 1cm 上昇します。例えば、台風の接近により気圧が 1000hPa から 950hPa になることで海面は 50cm 上昇します。特に、南に開いた湾の西側を台風が北上する場合、南寄りの強風が吹くため、大きな高潮被害が発生することがあります。(hPa: ヘクトパスカル)



南向きの湾や、湾の奥まったところで高潮の高波が押し寄せやすい

台風の強さ

台風の強さは最大風速で区分しています

階級	最大風速
強い	33m/秒～44m/秒
非常に強い	44m/秒～54m/秒
猛烈な	54m/秒～

台風の大きさ

台風の大きさは風速 15m/秒以上の半径で区分しています

階級	風速 15m/秒以上の半径
大型 (大きい)	500km～800km 未満
超大型 (非常に大きい)	800km 以上

避難のポイント

むやみに海岸や河口付近に近づかない

高潮で潮位が高くなっているときは普段は波が来ないようなところまで波が押し寄せることがあります。また、河川の水位も高くなる可能性があります。



風や雨が強くなる前に避難しましょう

潮位が上昇する前に暴風が予想される場合もあります。暴風が吹き始めてからでは屋外での行動は命に危険が及ぶこともあります。



高潮発生のおこし

① 気圧による海面上昇 (吸い上げ)

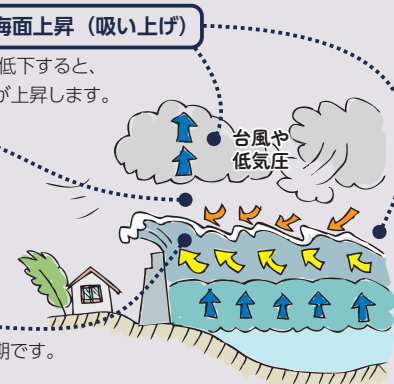
気圧が 1hPa 低下すると、約 1cm 海面が上昇します。

② 風で押し寄せる波 (吹き寄せ)

台風による強い風で海水が海岸に吹き寄せられて、海面が上昇します。押し寄せた波が、沖に戻れずに海岸付近にたまるようになり、海面が上昇します。

③ 満潮時間との重なり

夏から秋にかけては、一年のうちで潮位が最も高い時期です。台風の接近時には満潮時間にも注意しましょう。



命を守る行動 早めの避難

台風が近づいて風が強くなる前に

警戒レベル 3 高齢者等避難 や 警戒レベル 4 避難指示 で

危険な場所から必ず逃げる！

台風の強風で屋外に出ることは大変危険になります。風が強くなる前に早めの避難をしましょう。

避難先として 親戚・知人宅、避難所、海から離れた高い建物 などを探しましょう。

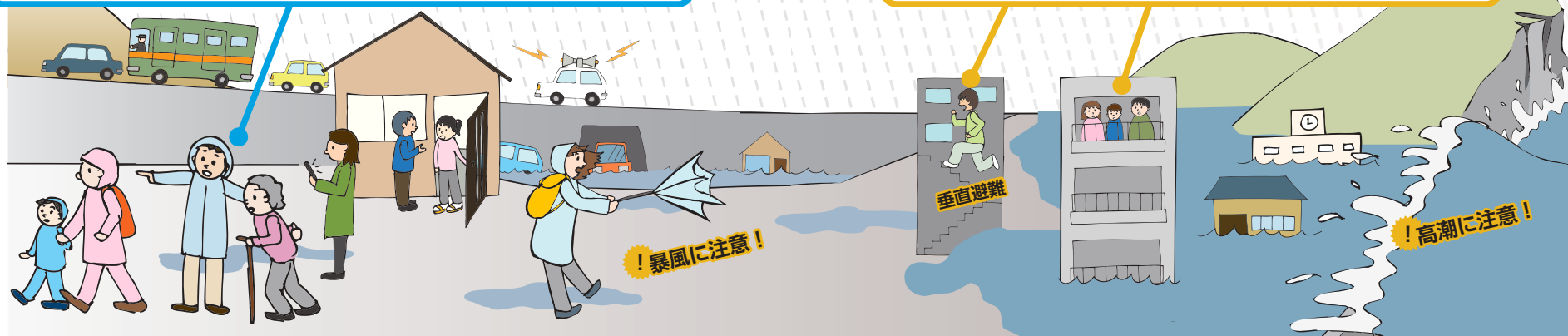
命を守る行動 逃げ遅れてしまったら...

風が強くなった後や浸水した後は **高くて丈夫な建物** へ

逃げ遅れてしまったら、その場そのときの状況にあわせて最も安全と思われる場所で身を守りましょう。

避難先として、**高い建物、高い場所、自宅の高いところ、近くの安全なところ**を探しましょう。

65～70ページの高潮ハザードマップで判定しましょう。



内水氾濫を知る

内水氾濫って?

市内や周辺にたくさんの雨が降り、川へ排水できず、低いところに水がたまること

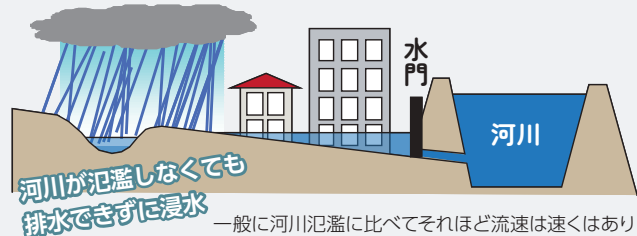


浸水害の種類

浸水害には「外水氾濫」と「内水氾濫」があります。大規模な水害につながるのは河川の外水氾濫ですが、内水氾濫は集中豪雨や局地豪雨でも発生するため注意が必要です。

内水氾濫

集中豪雨など短時間で局地的な大雨が降ることで、排水路や下水道が雨水を流しきれなくなり、溢れ出した雨水が街の中などに溢れて浸水すること。



河川が氾濫しなくても排水できずに浸水

一般に河川氾濫に比べてそれほど流速は速くはありませんが、局所的な低地や急こう配な場所などでは流速が速くなるおそれがあり、浸水深が浅くても危険な場合があります。

外水氾濫 (河川洪水)

台風や集中豪雨による大雨で河川の水位が上昇し、堤防が決壊したり、堤防を越えたりして河川が氾濫すること。



外水氾濫 (河川洪水) については →15 ~ 16ページ

避難のポイント

自ら積極的に情報収集しましょう

避難情報や気象状況に注意し、河川氾濫のおそれがなく、自宅の2階以上などで安全を確保できるのであれば、無理に外出や移動はせずに、とどまりましょう。



浸水が浅くても歩くのは危険です

浸水が浅くても流れが早い場合は、歩くのは危険です。くわし程度の水位でも足がとられることがあります。



浸水被害を軽減する方法

普段から

できることから始めましょう

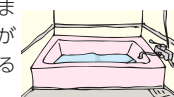
側溝や排水溝の清掃

雨水がスムーズに流れなくなると、雨水がたまり、浸水が発生します。普段から側溝や排水溝の掃除をして、水はけを良くしておきましょう。



生活用水の確保

浴槽の水は流さずに溜めておきましょう。下水の逆流を防ぐことができ、生活用水としても利用することができます。



大雨が予想される段階

氾濫発生の3日~1日半前までに、出来る限りの対策をしましょう

■ 屋外の作業は大雨が降る前に

家のまわりの確認

窓や屋根の補強などは早めに!

物干しざおは寝かせ、風で飛ばされそうな植木鉢やゴミ箱などは、室内に入れておきましょう。



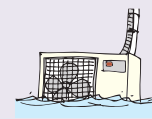
自家用車の移動

自家用車を早めに安全な場所へ移動しておきましょう。



ブレーカーを落とす

エアコンの室外機や配線類から漏電の危険性があります。ブレーカーを落としておきましょう。



浄化槽の確認

浄化槽に土砂や泥が浸入しないように、浄化槽のフタがしっかりと閉まっているか確認しましょう。また、プロアー (浄化槽ポンプ) の電源を切り、高い場所に移動しておきましょう。



■ 思わぬところからの浸水を防ぎましょう

水の吹き上がり防止

下水が逆流し、トイレから水が噴き上がることがあります。



水を入れたビニール袋などで重しをしましょう。

床下浸水により、床下収納のふたが開いて水が入ってくる場合があります。

重しをして浸水を防ぎましょう。



大切なものを高いところへ

家財や家族の思い出の品などは、浸水しない高い場所に移動しておきましょう。

通帳・印鑑など 当分の衣類など



家電製品



アルバムなど 思い出の品



簡易水防工法で浸水を防ぎましょう

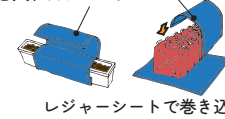
簡易水防工法は、家庭にあるものを使って家屋への浸水や流入を防ぐ方法です。水深が浅い段階では有効です。玄関などの出入口だけでなく、床下への浸水の防止も重要です。

家庭にある物を使った簡易水のう

ゴミ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れる



水を入れたポリタンクや土を入れたプランター



止水板

出入口に板などを設置し、浸水を防ぎます。

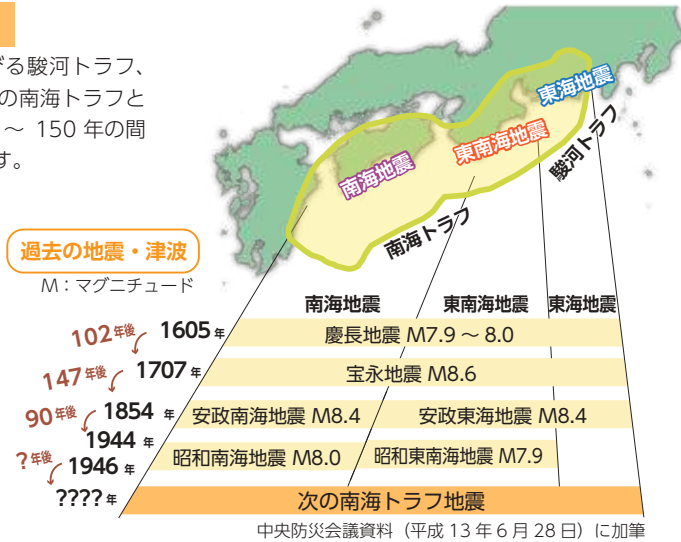


地震・津波の基礎知識

四日市市に想定される地震

南海トラフの巨大地震

駿河湾から愛知県沿岸にのびる駿河トラフ、四国や紀伊半島などの沿岸部の南海トラフと呼ばれる付近では、過去 100 ~ 150 年の間隔で巨大地震が発生しています。



活断層による地震

四日市市周辺には、活断層が多数存在し、歴史的に見ても、伊賀上野地震 (1854 年)、濃尾地震 (1891 年) などが発生し、多くの被害が生じています。伊勢湾にも、伊勢湾断層帯があり、津波の発生源となる可能性があります。



三重県内活断層図 (北勢地域)

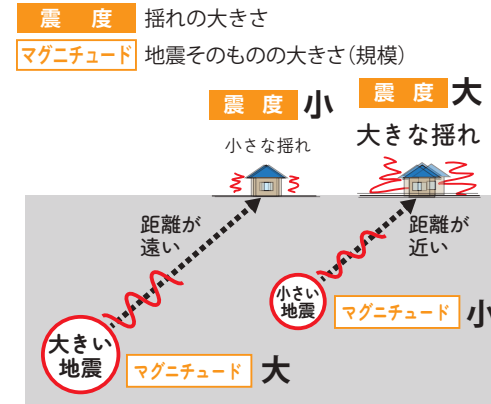
https://www.bosaimie.jp/static/X_MIE_mhc00



三重の活断層 (平成 24 年 3 月改訂) をもとに作成

震度とマグニチュード

震度は揺れの大きさを表し、マグニチュードは地震そのものの大きさ (規模) を表しています。地震の波が地中を伝わり地面が揺れるため、大きな地震でも距離が遠ければ、揺れは小さくなり、逆に小さな地震でも距離が近ければ、揺れは大きくなります。



過去にどんな地震が?

1944 年 (昭和 19 年) 12 月、昭和東南海地震が、2 年後の 1946 年 (昭和 21 年) には昭和南海地震が発生しました。四日市地域では、全半壊の建物 1,263 戸、死者 22 人の被害が記録されています。当時世界一を誇った、石原産業株式会社四日市工場の大煙突は 1/3 が倒壊しました。



写真提供: 石原産業株式会社四日市工場

津波の特徴

津波はその大きさに関わらず、大きな破壊力があります。その特徴を通常の波との違いから理解しておきましょう。

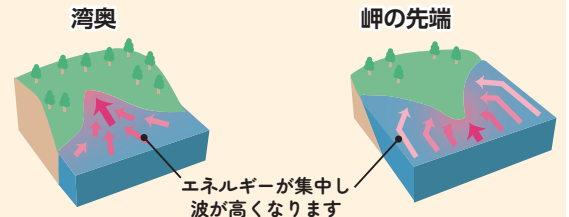
通常の波



津波



湾奥や岬の先端などでは波が集中し、高い波となるため、特に注意が必要です



地震を知る

地震って？

地下の岩盤が周囲から押されたり、引っ張られることによって、岩盤が急激にずれ、地表が揺れること



揺れから身を守るための対策

□ アンテナなどはしっかり固定

□ 屋根の軽量化

□ 柱・梁を補強

□ 厚手のカーテン

□ 通電火災を防ぐため、地震を感知して電気をストップする、感震ブレーカーの設置も有効

□ ブロック塀ではなく生け垣など

□ 基礎・土台を補強

□ 扉に留め具

□ 火元に消火器

□ 揺れるものはひもで固定

□ 近くの窓にはカーテンか飛散防止フィルムを



□ 家具の転倒のおそれのある場所に寝ない

□ 枕元に靴と懐中電灯

□ 家具の転倒を防ぐ

□ 常時水を貯める

□ 子ども部屋、居間、ダイニングの窓や食器棚などのガラスには飛散防止のフィルムを貼る

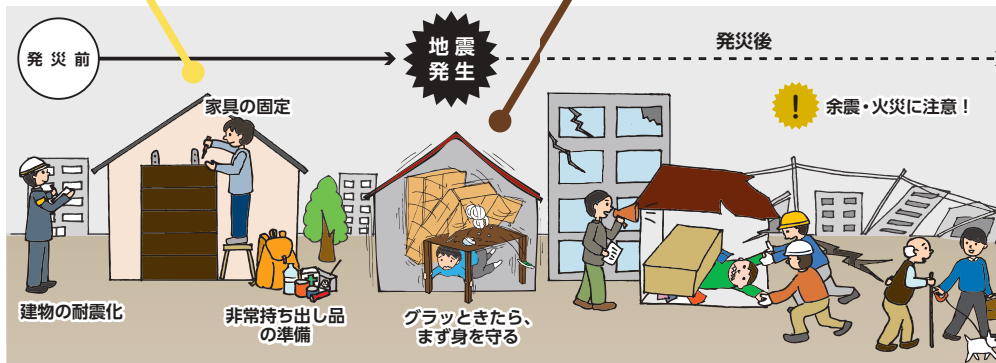


□ ガラスでのけがを防ぐ

命を守る行動

建物の耐震化や家具の固定をしておきましょう

地震の被害は一瞬のため、起こる前の備えが第一です。特に昭和56年以前に建てられた木造住宅の場合は、必要に応じて耐震補強しましょう。



職場での地震対策



□ オフィス家具の転倒防止

書棚などを壁や床に固定する。
OA 機器も固定する。

□ 物の落下防止

棚の上に備品を置かない。
揺れで飛び出す危険のあるものは、扉のついた棚にしまう。

□ 避難経路の確保

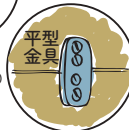
出入り口付近に大型の家具を置かない。
通路を120cm以上あける。

□ 家具を固定

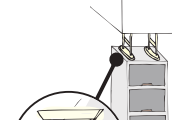
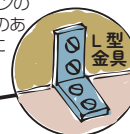
平成7年の阪神・淡路大震災では犠牲者の約8割が建物の倒壊や家具の転倒で命を落としています。



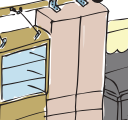
※固定用の針金は太さ1ミリ以上のもの



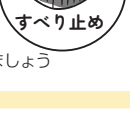
※L型金具やヒートンの固定は壁の下地のあるところや横木に



※横揺れには弱いので、外れることがあります



※ピアノの固定方法はメーカーや購入店に相談しましょう



命を守る行動

グラツきたら、まず身を守る

揺れを感じたら、丈夫なテーブルや机などの下に身を隠し、頭を保護するようにしましょう。屋外にいるときは、頭上からの落下物や、倒れてくる壁などに注意しましょう。

緊急地震速報は唯一の事前情報



緊急地震速報を見聞きしたら強い揺れが来るまでの短い間に落ちてくるものや倒れてくるものを避け、あわてずに身の安全を確保しましょう。

※速報が間に合わない場合もあります。地震の揺れを感じたときは身を守る行動をとりましょう。

揺れたらすぐに身を守る行動を

緊急地震速報を見聞きしたり、地震の揺れを感じたら、すぐに身を守りましょう。

屋内にいるとき

机やテーブルの下に入るなどして頭を守り、揺れがおさまるのを待ちましょう。

- 耐震性の低い建物にいる場合は、ドアなどを開けて避難路を確保し、外に出ましょう。
- 揺れがおさまってから、落ち着いて火を消しましょう。

屋外にいるとき

建物、木、電柱から離れ、かばんなどで頭を守り、小さくなって揺れがおさまるのを待ちましょう。

津波を知る

津波って？

主に海底で起こった地震によって海水が陸地へ押し寄せる非常に大きな波のこと



最大津波高と浸水深はちがいます

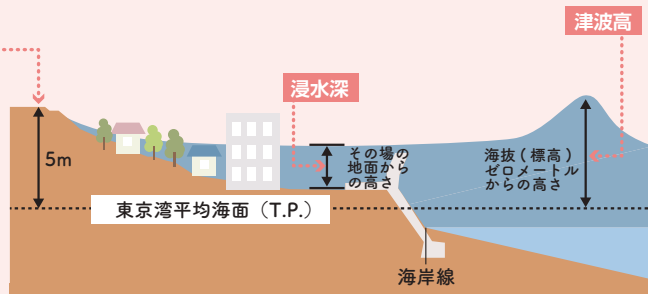
最大津波高と浸水深は異なります。津波高は沖合での海拔（標高）ゼロメートルからの高さで、浸水深とは地面から浸水面の高さです。そのため、場所によって浸水深は異なります。

津波避難目標ライン

内陸部の海拔 5m 地点を結んだライン

津波の際は、このラインよりも山側に避難

→ 津波ハザードマップ 81～90 ページで確認



津波避難のポイント

最善をつくす

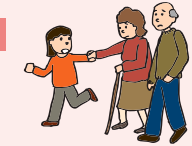
津波から避難するときには、あわてずに、声を掛け合い、みんなで避難しましょう。なお、避難する場所は、津波避難ビルでなくても構いません。命を守るために最善をつくすことが重要です。

→ 津波避難ビルは、101～102 ページで確認



率先して声かけ、避難

いざというときに適切な行動をとることは難しいものです。まず、あなたが率先して行動することで、その姿を見た周辺の人も避難するようになり、結果的に多くの人を助けることになります。



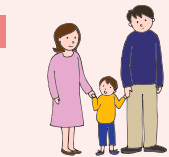
徒歩で避難

車で避難した場合、道路が揺れや液状化による被害で通行できなくなったり、混雑により渋滞が発生することが考えられます。原則、徒歩で避難しましょう。



避難することを習慣に

まわりの大人が避難の呼びかけに応じなかったら、子どもは避難しないことを当然と考えたまま成長してしまいます。何度空振りしても、避難することを習慣とすることが、家庭でできる津波防災教育の一つです。



命を守る行動 早めの避難

大きな揺れや長く続く揺れを感じたらできるだけ早く津波避難目標ラインより山側の遠くて高い場所へ！

津波の注意報や警報が出ている間は避難を続けましょう。車で避難する場合、混雑により渋滞が発生することが考えられます。原則、徒歩で避難しましょう。

避難先として 親戚・知人宅、避難所、海から離れた高い建物などを探しましょう。

より遠くて高いところへ

励まし合って避難

避難を呼びかける

命を守る行動 逃げ遅れてしまったら...

遠くに避難できない場合は 近くの高い場所へ

逃げ遅れてしまったら、その場そのときの状況にあわせて最も安全と思われる場所で身を守りましょう。



避難先として、近くの津波避難ビル、高い建物、高い場所を探しましょう。

81～90ページの津波ハザードマップで判定しましょう。

！津波注意報・警報が出ている間は避難を続ける

！小さい津波でも、大きな破壊力

！繰り返しやってくる